

「CBDCフォーラム  
全体会合（第一回）」を  
開催（七月）

▼日本銀行は、二〇二二年四月より中央銀行デジタル通貨（CBDC）の基本的な機能や具備すべき特性が技術的に可能か否かを検証するための概念実証に取り組み、予定通り二〇二三年三月に終了しました。

▼同年四月より、概念実証では検証しきれていない技術的な実現可能性の検証と、技術面・運用面の検証に有用な民間事業者の技術や知見を活用する観点から、「パイロット実験」を開始しました。

▼「パイロット実験」では、①中央システムからエンドポイントデバイスまでを実装する実験用システムを構築し、性能試験等を行うとともに、②CBDCの制度設計を適切に進める観点から「CBDCフォーラム」を設置し、リテール決済に関わる民間事業者の参加

を得ながら、幅広いテーマを議論・検討しています。

▼日本銀行は、リテール決済にかかわる民間事業者六〇社にご参加いただき、七月二十日に標記会合を開催しました。

▼会合では、①CBDCに関する取り組みと②CBDCフォーラムの運営について、日本銀行より説明し、参加者の方々と意見交換を行いました。

▼フォーラムのワーキンググループごとの活動は、八月より順次開始しています。日本銀行としては、CBDCフォーラムでの議論・検討を通じて得られる民間事業者の技術や知見を日本銀行における実証実験と制度設計面の検討に活かしていきたいと考えています。

▼本会合の議事概要やCBDCフォーラムに関する最新情報は、日本銀行ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。



中央銀行デジタル通貨に  
関する連絡協議会（第六回）  
の開催について

▼「中央銀行デジタル通貨に関する連絡協議会」では、中央銀行デジタル通貨に関する日本銀行の取り組みについて民間事業者や政府との情報共有を図るとともに、今後の進め方を協議しています。十一月十四日に開催した六回目の連絡協議会では、「パイロット実験」におけるCBDCフォーラムの運営ならびに実験用システムの準備状況、およびCBDCに関する海外主要国の取り組み等について、参加者の方々と意見交換を行いました。

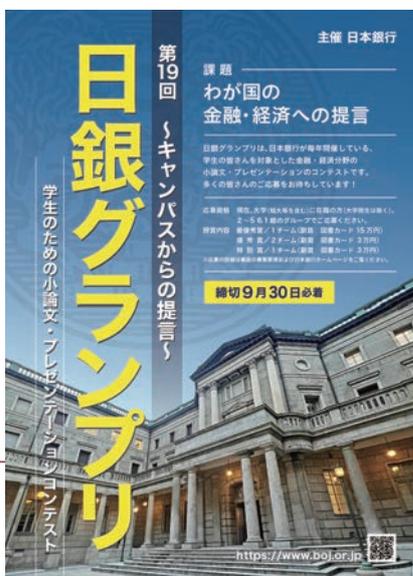
▼連絡協議会の説明資料や議事要旨は、日本銀行ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。



「第一九回 日銀グランプリ」  
「キャンパスからの提言」の  
決勝大会を開催

▼大学生を対象とする金融・経済分野の小論文・プレゼンテーションのコンテスト「第一九回 日銀グランプリ」キャンパスからの提言」に、今回は全国各大学から一〇五編の作品が寄せられ、書類審査を通過した五十チームにより十一月二十五日に決勝大会が開催されました。

▼決勝大会の審査員は、鈴木純氏（経済同友会 副代表幹事、



## トピックス

帝人株式会社 シニア・アドバイザー）、江川雅子氏（学校法人成蹊学園 学園長）、日本銀行の水見野良三副総裁（審査員長）、高田創・田村直樹両政策委員会審議委員でした。各チームとも堂々とプレゼンテーションと質疑応答を行いました。

▼最優秀賞には、埼玉大学経済学部チームの「投信レンズ」「貯蓄から投資へ」の第一歩」が選ばれました。その他、優秀賞に常磐大学総合政策学部チーム、東京理科大学経営学部チーム、敢闘賞に同志社大学経済学部チーム、南山大学法学部チームが選出されました。

▼決勝進出チームの作品全文と審査員講評、決勝大会の様様については、後日、日本銀行ホームページに掲載する予定です。



最優秀賞の埼玉大学経済学部チーム



優秀賞の東京理科大学経営学部チーム



優秀賞の常磐大学総合政策学部チーム



敢闘賞の南山大学法学部チーム



敢闘賞の同志社大学経済学部チーム

(撮影：野瀬勝一)

## 編集後記

■今年も早いもので年の瀬を迎えました。国内では、新型コロナウイルス感染症の5類移行を経て街に賑わいが戻り、多くのイベントやお祭りが4年ぶりに通常開催されました。他方、海外では、ウクライナでの戦争が続き、中東でも軍事衝突が起こるなど、平穏な日常のありがたさを改めて感じる一年だったように思います。読者の皆さまにとっては、どのような一年だったでしょうか。

■今回の対談とインタビューでは、音楽とスポーツに関するお話を伺いました。ヤマハの中田社長は、楽器は生活必需品ではないが人間らしく生きるための「人間必需品」であり、楽器の「プレー」は人間活動の本質だとおっしゃいます。車いすテニスの国枝慎吾さんが力強い「プレー」で数々のタイトルを勝ち取った姿に歓喜し、勇気をもらった方も多いことでしょう。音楽もスポーツもそれがないと生きていけないわけではありませんが、間違いなくわれわれの人生を豊かにしてくれるかけがえのないものだと思います。来年は世界中の人々に、音楽とスポーツの「プレー」を楽しめる日常がやってくることを心から祈っています。(小牧)

## [アンケート募集中]

「にちぎん」に関するご意見・ご感想は、アンケートよりお寄せください。日本銀行のホームページからインターネットでもアンケートにご回答いただけます。



※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。(https://www.boj.or.jp/about/koho\_nichigin/index.htm)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ(https://www.boj.or.jp)をご覧ください。

にちぎん 2023年冬号  
編集・発行人 小牧義弘  
発行 日本銀行情報サービス局  
〒103-8660  
東京都中央区日本橋本石町2-1-1  
☎03-3277-1609



デザイン 株式会社市川事務所  
印刷 株式会社アイネット  
禁無断転載

## 「日銀親子見学会」について

▼「日銀って何をしているところ?」「日銀ってどんなところ?」そのようなお子さまの好奇心にお応えするため、日本銀行本店では、小学四年生〜中学生のお子さまと保護者を対象に、「日銀親子見学会」(協力:金融広報中央委員会)を開催しております。



地下金庫の見学



お札の数え方を学ぶ

▼この見学会では、国の重要文化財に指定されている本館(地下金庫や旧営業場など)見学や「お金の使い方」を学んでいただくほか、「お札の偽造防止技術」「お札の数え方」「一億円の重さ」を体験していただきます。

▼次回の開催は春休み期間中を予定しています。どうぞご期待ください。

